

中国茶の輸出状況から 見えた興味深い傾向

コロナ禍から4年、 中国茶の輸出量は回復へ

夏本番に向けて、中国茶は緑茶、ジャスミン茶、烏龍茶、プーアル茶など出荷のピークを迎えています。新型コロナウイルス感染症の世界的大流行から4度目の夏です。コロナ禍を経て、中国茶の輸出状況はどうなっているのでしょうか。中国総務部、税関総署の統計資料を調べました。

データによると、最近の中国茶の輸出量は、コロナ禍の時期より少し回復しているものの、コロナ禍前の2019年と比べて、まだ完全に復活したというわけではありません。

新型コロナウイルス感染症の発生以来、中国茶の出荷量は国内向け、国外輸出向けともに下落しました。コロナ禍が落ち着いた昨年にも低迷する状況が続いていましたが、やっと2024年になって回



明山茶業株式会社 社長
取締役 中国室 張文昕

1988年上海より来店。名門中国料理を経て現任の勤務。生涯学習講師、中国茶高級評茶師、中国茶師。特技は卓球、イラス。好きな食べ物は、魚屋の定食。

復の兆しが見えてきたようです。今年1月からのデータを見ると、中国茶の輸出状況に関して、以前にはない傾向が現れています。

最も輸出量の多いお茶、 輸出先トップに驚き!?

まず、予想外だったのがお茶の種類別の輸出割合。私は、日ごろの業務に鑑みて、烏龍茶、ジャスミン茶が断然トップだろうと考えていました。しかし実際には、中国緑茶が輸出額全体の76.3%も占めていたのです。期待していた烏龍茶は8.7%、ジャスミン茶は4%しかありませんでした。

輸出先の上位国には、さらに驚きです。日本は茶文化の歴史が長く中国茶の愛好者も多いことから、当然のごとく上位に入るものと思っていたのですが、意外にも8位にとどまりました。トップ3は、1位がガーナ、2位にモロッ

コ、3位はマレーシアでした。マレーシアは中国系の移民が多いため、中国茶の需要が高いということと3位も納得できます。しかし、アフリカのガーナが1位とは、思いもよらないことでした。

アフリカのガーナで 中国茶が好まれる事情

以前、中国のサプライヤーから聞いた話では、中国緑茶をいつも大量に輸入している国といえばモロッコでした。というのも、年間を通して降水量が少なく乾燥しているモロッコでは、日常的にミンティティーが飲まれています。このミンティティーのベースとして使われるのが中国緑茶、特に珠茶という緑茶なのです。そんなわけで中国緑茶の消費量が非常に多いことから、中国茶の一番の輸入国として知られていました。

それがいま、なぜガーナが最大の輸入国になったのか、調べてみ

ました。

ガーナは、他のアフリカ諸国と同様に暑い国です。また、牛肉や羊肉を好んで食べる人が多いことから、さっぱりと飲める中国緑茶の人氣が急上昇。中国緑茶は消化を助け、胃腸の働きをよくするとされているのだそうです。ここ数年のアフリカにおける経済発展を受けて、国民の健康に対する意識が高まっていると思われます。

中国国内のお茶業界も、アフリカに熱い期待を寄せているようです。特に近年、中国緑茶を主力とする会社が増え、アフリカに進出していきます。これらの事情が、今回、ガーナが中国茶の輸出先トップに躍り出た背景なのではないかと推察しています。

今後もお茶は、人間の健康にいい飲料として、世界中に広がっていくでしょう。

